

平成 29 年 3 月 31 日
国際 ILL 検討タスクフォース

我が国における国際 ILL フレームワークの再検討に向けて
国際 ILL 検討タスクフォース最終報告

本タスクフォースの目的と検討経過

OCLC から、ISO ILL プロトコル変更に伴い、目下 GIF の実現のために WorldShare-NACSIS-ILL 間のシステム間相互接続に使われている旧 ISO プロトコルのサポートを近い将来停止することが通告され、一定の猶予期間中に新プロトコルへ対応するように要請された。これに対して、平成 26 年 3 月報告『今後の GIF プロジェクトの在り方について(検討結果報告書)』(GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループ)において、システム間相互接続が維持されるべきであると提言された。

この提言は、平成 26 年 7 月開催の第 8 回連携・協力推進会議において検討され、この問題は「これからの学術情報システム構築検討委員会」に検討を付託されることとなった。「これからの学術情報システム構築検討委員会」での検討の結果は、平成 27 年 2 月に開催された第 9 回「連携・協力推進会議」において報告された。すなわち、NACSIS-ILL を ISO ILL プロトコルの変更に対応して改修する喫緊の必要性を認めないとし、「GIF プロジェクトのフレームワークそのものの再検討が必要」「エージェント方式による運用を含めて検討すべき」というものであった。

これを受けて国公私立大学図書館協力委員会は、国公私立大学図書館の各団体での検討を経て、平成 27 年 7 月の第 10 回「連携・協力推進会議」において、体系的な対応を行わないことに同意すると表明するとともに、新たな検討組織の設立を表明し、国際 ILL 検討タスクフォース（以下、「タスクフォース」）を設置した。タスクフォースの役割は、GIF プロジェクトのフレームワークそのものの再検討とエージェント方式の実現可能性の検討を行うことにあった（資料 1：タスクフォース委員名簿，資料 2：タスクフォース設置申合せ）。

タスクフォースは、平成 27 年 9 月に第 1 回会合を開き、爾来平成 28 年度末までに 7 回の会合を持った。また、平成 28 年 1 月には、北米日本研究資料調整協議会（NCC）の議長及び ILL/DD 部門チェア及び国立国会図書館の関係者を交えた、日本からの文献提供に関する意見交換を行った。また、平成 28 年 8 月には、エージェント方式に関する意見交換を行った（資料 3：タスクフォース会合記録）。

1. エージェント方式の実現可能性

タスクフォースは、「エージェント方式」の実現可能性について検討した。ここでいうエージェント方式とは、従来の NACSIS-ILL と WorldShare との間で ISO のプロトコルに基づいてシステム間相互接続によって行われていたデータのやりとりを代わり、手作業で二つのシステム間のデータのやりとりを行うものである。これにより、システム間相互接続の不具合やデータ入力ミスによって生じているトラブル解消のための業務を担ってきた GIF プロジェクトチームの多大な負荷が解消されることも強く期待されていた。タスクフォースにおける検討の結果、技術的な可能性は十分にあるとの結論を得た。(資料 4-1 : GIF プロジェクト : エージェント方式の提言)

タスクフォースでは、このエージェントを民間業者に委託することを検討したが、発生する事例が十分想定できず、積算の根拠となる作業手順の定式化が困難であることから所要経費が高額にならざるを得なかった。それゆえ大学図書館コミュニティにおいてこのエージェントを担う可能性を検討し、タスクフォース関係者により規模の大きな大学を中心に引き受けの可能性を探索した。結果として、民間業者、大学図書館コミュニティのいずれを活用するとしても、この業務を引き受け、予算面でも、運用面でも安定した業務を担うことができるエージェントを確立できる可能性は低いと判断した。(資料 4-2 : エージェント方式検討資料 : カンパニーベース, 資料 4-3 : エージェント方式検討資料 : コミュニティベース)

2. GIF の現状分析

タスクフォースは、GIF プロジェクトそのものの見直しのために GIF の現状についての詳細な分析を行った。すなわち、1) 北米から日本への依頼、2) 日本から北米への依頼、及び 3) 韓国からの依頼が大多数を占める日韓 ILL である。

1) 北米から日本への依頼

これは GIF 発足の経緯を勘案すると、最も優先度が高いものである。2014 年度に GIF によってニーズが満たされた北米から日本への依頼分(複写 361 件, 現物貸借 288 件)について、国立国会図書館における所蔵を確認し、その上で、複写については、(1) 全点についてオープンアクセスかどうかを確認、(2) 国立国会図書館に所蔵がないものについては北米の図書館の所蔵状況を確認、(3) 国立国会図書館に所蔵されているものについては電子化の状況を確認した。また、現物貸借については、(1) 国立国会図書館の所蔵資料についてデジタル化の状況についても確認、(2) 国立国会図書館での所蔵の有無を問わず WorldCat で北米の所蔵状況を確認した。

その結果、文献複写においては 3%、現物貸借においては 2%のリクエストのみが GIF

を介して日本の大学図書館でなければ提供できないものであり、大部分は国立国会図書館を含む他の手段によって提供可能であることが確認された。(資料5：2014年度に北米から日本に依頼された資料に関する分析)

2) 日本から北米への依頼

日本から北米への依頼については、2012年から2014年度の依頼について分析を行った。特定のいくつかの大学からの依頼が大半を占めること、特定利用者からと思われる特定資料への依頼が目立つこと、また全体としては多くの大学図書館から依頼がされているが、一館あたりの依頼件数は非常に少ないことが明らかになった。(資料6：ILL資料の分析：日本から北米への依頼及び日韓間)

3) 日韓 ILL

韓国のKERISとの間のシステム間相互接続については技術的な問題が生じている訳ではないので検討における緊急性は低いと判断したが、運用面での意思疎通は十分に行われていないという課題が確認された。なお、日韓ILLにおいては圧倒的に韓国からの依頼に応えるものであった(2014年度で韓国への文献提供が2,719件であるのに対して、日本への文献提供は52件)。件数が膨大であるため、依頼内容の詳細な分析は行っていないが、依頼件数上位の雑誌タイトルを見る限り、国立国会図書館など他の手段によって十分対応が可能と考えられた。(資料6：同上)

3. 結論

GIFは、資源分散をベースとしたILL/DDシステムの構築をその理念とし、1)分散型のリソースの活用、2)コミュニケーションシステムの確立、3)料金決済の簡便化をその当面の目的としてきた。GIFの発端が海外における日本文献提供環境の改善にあったことからこの面に着目して現状を分析すれば、1)前述のGIFの現状分析が明らかにしたように、国立国会図書館は蔵書の面で日本語文献提供のセンターとしての機能を果たしうるものであり、日本語文献の提供のためにGIFのような分散型のシステムを維持する必要性は低い、2)国立国会図書館はオンラインでのILL受付システムを有しており、システム間相互接続に大きな問題を含み、現状では日米のプロジェクトチームメンバーがその課題の解決のために多くの時間を割かざるを得ないGIFに比較して大きな優位性を有する、3)国立国会図書館のILLにおいてはクレジットカードによる料金決済が可能であり、これにかかる煩雑さは以前に比べて大幅に減少しているという状況にある。このような状況は、現在のGIF、とりわけ国外への日本語文献提供については、他のサービスで代替可能であることを示しており、タスクフォースは、既にGIFはその役割を終了したものと認識した。日本から海外への依頼についても、現状で

は主たる受益者は少数の特定の大学であり、これを大学図書館コミュニティのボランティアである GIF プロジェクトチームが支える構図は多くの大学図書館にとって納得いくものとは言えないと判断した。

タスクフォースは、しかしながら、GIF 参加館が GIF に代わるサービスへと移行するための期間を持つ必要性について認識し、当面の措置として、現行システムを 2018 年 3 月まで（OCLC による現在の ISO ILL プロトコルのサポートがそれより前に終了した場合にはその時点まで）は継続し、その間に新たなフレームワークを検討すべきとの結論に達した。タスクフォースでは、当面の措置の期間をより長く設定すべきとの議論もあったが、GIF プロジェクトチームの作業量がもはや限界に達しているという現実を踏まえて、上記のような判断をすることになった。なお、当面の措置として継続する期間においては、GIF プロジェクトチームは、GIF の収束に向けた作業を中心とした活動を行い、トラブル発生時の対応は最小限に止めるものとする。

なお、新たなフレームワークの前提として、特に我が国発の研究成果の国際的な共有化に向けて、大学図書館が学術情報の電子化とオープンアクセス化を引き続き強力に推進することを期待する。これに加えて、文化審議会著作権分科会法制・基本問題小委員会における著作物の電子的複製に関する議論や国立国会図書館による図書館送信サービスの進展などの動向に留意し、電子情報環境下において最適化されたドキュメントデリバリーを国内外を問わず実現する新しいフレームワークを、大学図書館のみならず関係機関を含めて検討することを強く要請する。

国際 ILL 検討タスクフォース メンバー表

(平成 27 年 7 月 24 日～平成 29 年 3 月 31 日)

氏 名	所属
竹 内 比呂也 (国立大学図書館協会)	千葉大学附属図書館長
尾 城 孝 一 (国立大学図書館協会)	東京大学附属図書館事務部長
甲 斐 重 武 (国立大学図書館協会)	京都大学附属図書館事務部長
井 上 修 (国立大学図書館協会)	大阪大学附属図書館事務部長
北 村 茂 樹 (公立大学協会図書館協議会) 小 嶋 静 恵 (北村茂樹委員の代理)	首都大学東京学術情報基盤センター事務長
関 秀 行 (～平成 28 年 10 月 31 日) 松 本 和 子 (平成 28 年 11 月 1 日～) (私立大学図書館協会)	慶應義塾大学メディアセンター本部課長

第 78 回国公立大学図書館協力委員会

平成 27 年 7 月 24 日

国際 ILL 検討タスクフォースの設置について（申し合わせ）

1. 趣旨

国公立大学図書館協力委員会（以下「協力委員会」という。）は、第 10 回大学図書館と国立情報学研究所との連携・協力推進会議（平成 27 年 7 月 7 日開催）において、ISO プロトコル変更に対する NACSIS-ILL の対応について、システム的な対応はしないことに同意する旨の回答を行った。このことを踏まえ、協力委員会の下に国際 ILL 検討タスクフォース（以下「タスクフォース」という。）を設置し、GIF プロジェクトのフレームワークについて、エージェント方式による運用を含めて検討を行う。検討結果は、協力委員会に報告する。

2. 任務

タスクフォースは次に掲げる事項を任務とする。

- ・日米 ILL、日韓 ILL の現状分析と評価
- ・エージェント方式の導入に関する検討
- ・国内及び海外の関係機関との調整

3. 組織

タスクフォースは、国立大学から 4 名、公立大学から 1 名、私立大学から 1 名の委員をもって組織する。また、必要に応じてオブザーバを加えることができる。

タスクフォースに委員の互選により主査を置く。

4. 設置期間

平成 28 年 7 月開催の協力委員会までの 1 年間とする。ただし、期間内に検討が終了しない場合は、さらに 1 年間延長する。

5. 事務局

タスクフォースの事務局は、主査の属する図書館が担当する。

国際 ILL 検討タスクフォース 会合スケジュール表

第 1 回 平成 27 年 9 月 1 日 (月) 10:30~12:00
第 2 回 平成 27 年 10 月 20 日 (火) 10:00~12:00
第 3 回 平成 27 年 12 月 4 日 (金) 16:00-18:00
第 4 回 平成 28 年 2 月 16 日 (火) 15:00-17:00
第 5 回 平成 28 年 5 月 17 日 (火) 14:00-16:00
第 6 回 平成 28 年 7 月 4 日 (月) 14:00-16:00
第 7 回 平成 29 年 3 月 6 日 (月) 15:00-17:00

その他、関係者間会議

- ・北米日本研究資料調整協議会 (NCC) との懇談会

平成 28 年 1 月 25 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00

(国際 ILL 検討タスクフォースと、北米日本研究資料調整協議会 (NCC) の議長及び ILL/DD 部門チェア及び国立国会図書館の関係者が参加)

- ・北米日本研究資料調整協議会 (NCC) との懇談会

平成 28 年 8 月 23 日 (火) 13:30-15:30

(国際 ILL 検討タスクフォースと、北米日本研究資料調整協議会 (NCC) の議長が参加)

平成 28 年 10 月 19 日

国際 ILL 検討タスクフォース

我が国における国際 ILL フレームワークの再検討に向けて その 2

GIF プロジェクト：エージェント方式の提言

1. はじめに

国際 ILL 検討タスクフォース(以下、TF という)は、国公立大学図書館協力委員会の付託を受け、ISO ILL プロトコル変更への GIF における対応について、「システム間リンク」の新たな開発を行わないことを前提に、その代替案として、NACSIS 及び OCLC 双方の ILL システムに精通する要員によってデータ変換処理を行う「エージェント方式」の運用の検討を行った。検討の結果、エージェントが行うデータ変換処理を、複数の大学図書館で分担して行う「コミュニティーベース」による方式が、我が国における国際 ILL フレームワークの再検討を進めるうえで現実的かつ合理的な方式として提言するものであり、併せてその実施に必要な措置についても提言するものである。

2. 検討の背景と経緯

2.1. 平成 25～26 年度：エージェント方式提案

ISO ILL プロトコル変更への対応については、平成 26 年 3 月報告『今後の GIF プロジェクトの在り方について(検討結果報告書)』(GIF プロジェクト再検討ワーキング・グループ)において、システム間リンクが維持されるべきであると提言された。

しかしこの提言は、平成 26 年 7 月開催の第 8 回連携・協力推進会議(以下、推進会議という。)において、「これからの学術情報システム構築検討委員会」でさらに検討することとなり、そこでの検討の結果、平成 27 年 2 月開催の第 9 回推進会議において、「後継の ISO ILL プロトコルについて喫緊のシステム的な対応の必要性はみられない」、また「GIF プロジェクトのフレームワークそのものの再検討が必要」であり「エージェント方式による運用を含めて検討すべき」と報告された。

国公立大学図書館協力委員会は、その後の検討を経て平成 27 年 7 月、第 10 回推進会議においてエージェント方式を含め GIF のフレームワークの再検討を進めることを表明するとともに、そのための新しい検討組織として TF を設置した。

2.2. 平成 27～28 年度：タスクフォースでの検討

TF では、NII はじめ関係機関と協議を進め、平成 27 年 12 月及び平成 28 年 1 月には NCC と意見交換を行い、また国立国会図書館関西館との間でも北米からの複写受付に関する意見交換を行っている。特に北米からの依頼資料については、『我が国における国際 ILL フレームワークの再検討に向けて その 1 - 2014 年度に北米から日本に依頼された資料に関する分析 -』(平成 28 年 2 月 16 日)として中間報告を行っている。

また、情報専門業者との間でエージェントの業務委託に関する協議を行った。その結果、エージェントの業務を情報専門業者に委託する方式「カンパニーベース」は、業務仕様が明確化できないために委

託経費の見積額が高額(約 7,000 円/件)となり財源確保ができずサービス移行が困難になることが判明し、代わりとして、エージェントが行うデータ変換処理を複数の大学図書館で分担して処理をする「コミュニティベース」での運用について検討を進めることとした。

3. エージェント方式

3.1. 検討の基本的な考え方

エージェント方式の検討における基本的な考え方は以下の通りである。①日米双方の大学図書館での移行を円滑にするために、データ入力法など運用方式の変更は最小限にする。②件数が急増しない事業を対象にした過渡期的措置として、システム的な新たな対応は行わず運用で対応する。③料金処理における日本側の負担を解消するために、ILL 文献複写等料金相殺サービスを利用する。④自立的な運用に必要な経費を回収するために、複写等の料金としてエージェントの手数料を設定する。

3.2. エージェントを担う大学図書館

複数の大学図書館で分担処理するとしても、また過去の利用統計からみて件数が大幅に増加する事業ではないとしても、エージェントを担う大学図書館にとっては新たな業務負担である。そのため、業務負担に対して相応のインセンティブとなるように、エージェント手数料が当該大学図書館に還元される仕組みを導入する。

3.3. 日米双方の ILL システムへのエージェントの参加

エージェントは、国公立大学図書館協力委員会のもとの組織として、日米双方の ILL システムのメンバーとして参加し、NACSIS-ILL の固有の参加組織番号及び OCLC Worldshare の図書館シンボルを取得する。NACSIS 及び OCLC の ILL システムのユーザインターフェースは Web ベースで利用できるため、エージェントの立地に制限はなく、またアカウントを複数の大学図書館で共有し共同分担して処理を行うことができる。

3.4. 料金相殺サービスの改善

GIF に係る料金決済は、これまで紀伊國屋書店 OCLC センターを介して、請求書及び料金振込みによる月次処理を行ってきたが、エージェントが紀伊國屋書店に業務委託することによって、GIF に係る料金決済を国立情報学研究所 ILL 文献複写等料金相殺サービスの枠組みに含めて処理を行う。

4. エージェント方式への移行に伴う変更等

4.1. 日本の大学図書館での主な変更点

依頼館として、受付館はエージェントだけを指定する。実際の受付館の北米図書館のシンボルは CMNT に記述・記録される。料金項目(SUM)には、実際の北米図書館での料金(\$)にエージェントの手数料(\$)等が加算される。

受付館としては、依頼館はエージェントだけとなる。実際の依頼館である北米図書館のシンボルはコ

メント CMNT に表示される。資料の送付先として実際の依頼館である北米図書館の住所等が表示されるので注意をする。

4.2. 北米の大学図書館での主な変更点

依頼館として、受付館はエージェントのシンボルだけを指定する。

事前に CiNii Books を検索して NCID を記入することを原則とし、NCID があれば、エージェントが最適な日本の所蔵館(GIF 参加館)を選択する。エージェントによる所蔵館選択を必要としない場合は、特定の所蔵館のシンボルを確認の項目に記入し注記する。

NCID が特定できない場合でも、事前調査(特定大学図書館の OPAC 等)で確認済みの場合は、確認の項目に書誌・所蔵の典拠情報を記述して、依頼先のシンボルを注記する。NCID も特定できず OPAC 等での確認済情報もない場合は、エージェントはその旨理由を付して依頼館に対して謝絶の回答をする。

受付館としては、依頼館はエージェントだけになる。資料の送付先として SHIP TO:, RETURN TO: に実際の依頼館である日本の図書館の住所等が表示される。

4.3. エージェントが留意する点

これまでシステムによる機械的なデータ変換を行ってきた代わりに、エージェントは正確なデータ変換を行うとともに以下の事項に注意し処理をする。①NCID 有無・所蔵館指定・典拠情報等を参考に適切な受付館選択を行う。②実際の依頼館の住所を確実に入力し資料が正しく届くようにする。③OCLC の自動転送機能によるトラブルを回避するために適宜レコードの状態を確認する。④エージェント手数料の加算処理を正確に行う。⑤エージェントを担う大学図書館の参加組織番号等を正確に記録する。

また、エージェントは、料金相殺の処理を適正に行うために、正確なデータ管理を行うとともに、実際の依頼館・受付館に関係する当該データを提供する。

4.4. 紀伊國屋書店の新たな役割

OCLC からのインボイスとエージェントからの管理データに基づき、エージェントと北米図書館との間の料金処理を行う。通常日本からの依頼の方が多いためエージェントへの請求が発生する。

また、エージェントからの管理データに基づき、国内大学間の ILL の料金相殺に加えて GIF に係る料金も合わせて相殺処理を行う。その際、エージェントを担う大学が受ける手数料を含めて処理を行う。

5. エージェント方式の実施に必要な措置

5.1. エージェント手数料

エージェント方式の運用に必要な経費の一部については、受益者負担分としてエージェント手数料を設定する。データ変換と双方の ILL システムの操作に係る平均処理時間を 20～30 分/件と想定し、要員の平均単価を 1,200～1,500 円/時とした場合、400～750 円/件が想定額となる。ほぼ中央値の 550 円/件に対応する 5.00 ドル/件を手数料とする。

エージェントへの円滑な移行には、エージェントを分担する大学図書館の積極的な参加が重要である。そのためには、エージェント手数料が当該大学の収入として還元されることが望ましく、ILL 文献複写等料金相殺サービスの料金処理に際して併せて処理されるものとする。

5.2. エージェントの管理的経費への補助

エージェント方式の運用においては、OCLC IFM および ILL 文献複写等料金相殺サービスに係るデータ管理をはじめ業務全体の管理にかかる経費も必要である。

管理的経費はサービス参加に伴う会費的経費として徴収することが適切であるが、過去に実績のない業務のため積算が困難である。また平成 29 年度当初から正確かつ円滑な運用となるためにも事前の財源確保が必要である。その意味でも、平成 29 年度の運用初年度に限り、国公立大学図書館協力委員会から補助することが望ましい。

料金相殺の具体的な処理においても財源の事前確保が必要である。月次の OCLC IFM と四半期の ILL 文献複写等料金相殺サービスの間では処理頻度の違いがあるため、エージェント方式運用開始直後は、OCLC IFM の先行処理が確実に遂行されるとともに、ILL 文献複写等料金相殺サービスとの間のバランスを保つ必要がある。その意味でも一定の準備金が必要となる。日米間では日本からの依頼が多く(金額ベース)、2012～2014 年平均で日本側からの約 160 万円/年の支払いが発生する。平成 29 年度の運用初年度には半年分に相当する 80 万円の準備金が必要である。

6. ロードマップ

エージェント方式移行までの主要な事項のロードマップは以下の通り予定している。

平成 28 年 10 月	エージェント方式移行への関係者事前調整
平成 28 年 11 月	協力委員会におけるエージェント方式移行への基本合意
平成 28 年 12 月	エージェントの役割を担う大学図書館の参加募集
平成 29 年 1～3 月	日米間での試行と評価。推進会議での了承。日米間での最終合意
平成 29 年 4～6 月	北米側の新プロトコル移行済み大学との間での先行的運用
平成 29 年 7 月	新プロトコル正式運用開始。推進会議での報告

7. おわりに

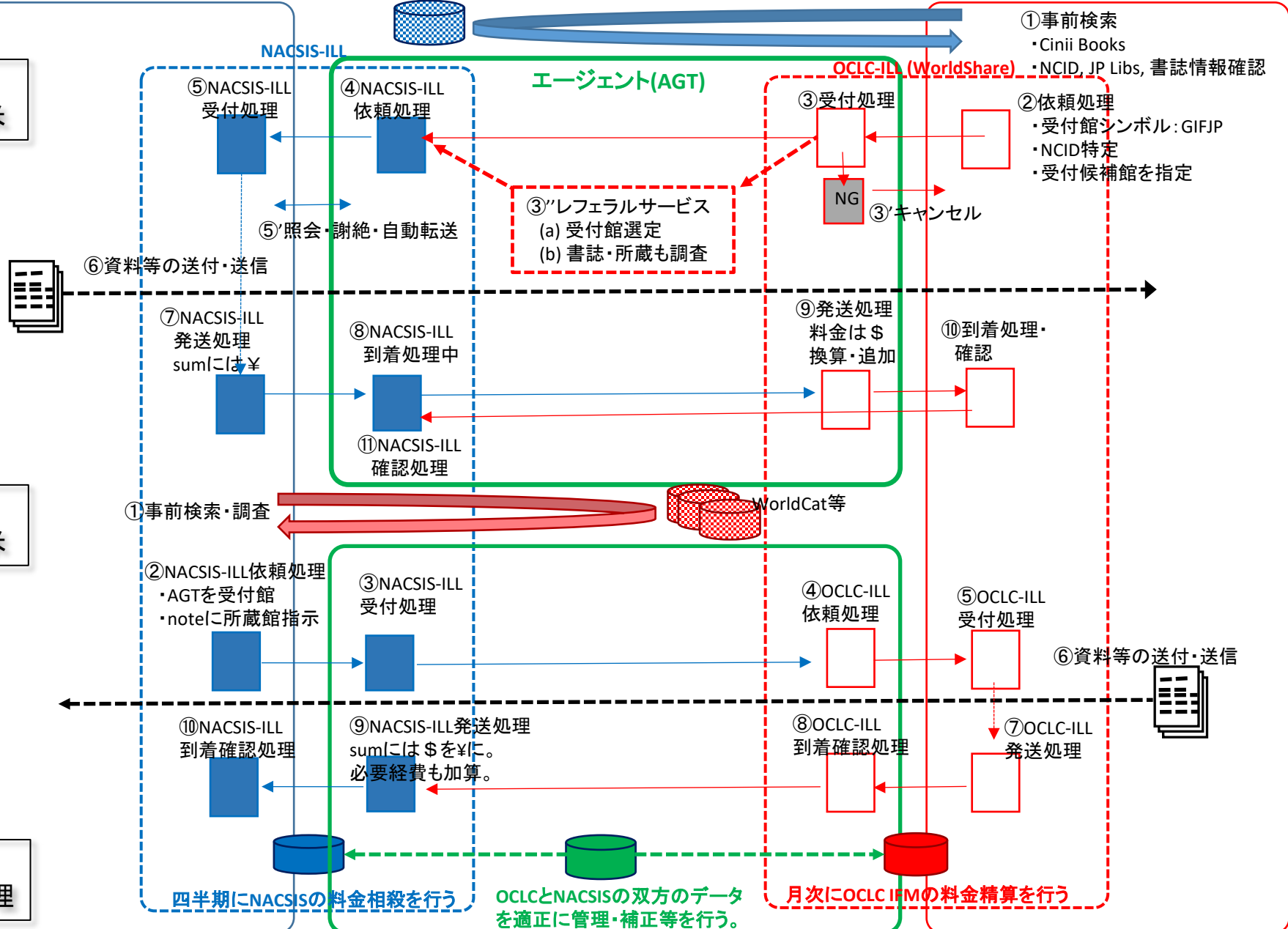
コミュニティーベースのエージェント方式への円滑な移行の成否は、エージェントの役割を分担する大学図書館の積極的な参加にかかっている。大学図書館の参加を前提として、関係機関・組織との調整を短期集中的に行う必要がある。そのためにも、エージェント料金の設定や初年度の管理的経費への支援について国公立大学図書館協力委員会の早急な英断を期待するものである。

なお、円滑な移行が実現した場合、実際の運用状況を分析評価してエージェント業務の見直しを行い、エージェント手数料及び管理的経費の改定や情報専門業者への業務委託の検討も必要となる。TF では、平成 30 年度以降におけるエージェント方式の運用に関してさらに検討し、日本から北米に依頼される資料の分析結果も含め、国際 ILL フレームワークの再検討に関する最終報告を平成 29 年 7 月に行う予定である。

日本の図書館(JPL)

CiNii Books等

北米の図書館(USL)

上段は
日本 ← 北米中段は
日本 → 北米最下段は
料金相殺処理

日本の図書館(JPL)

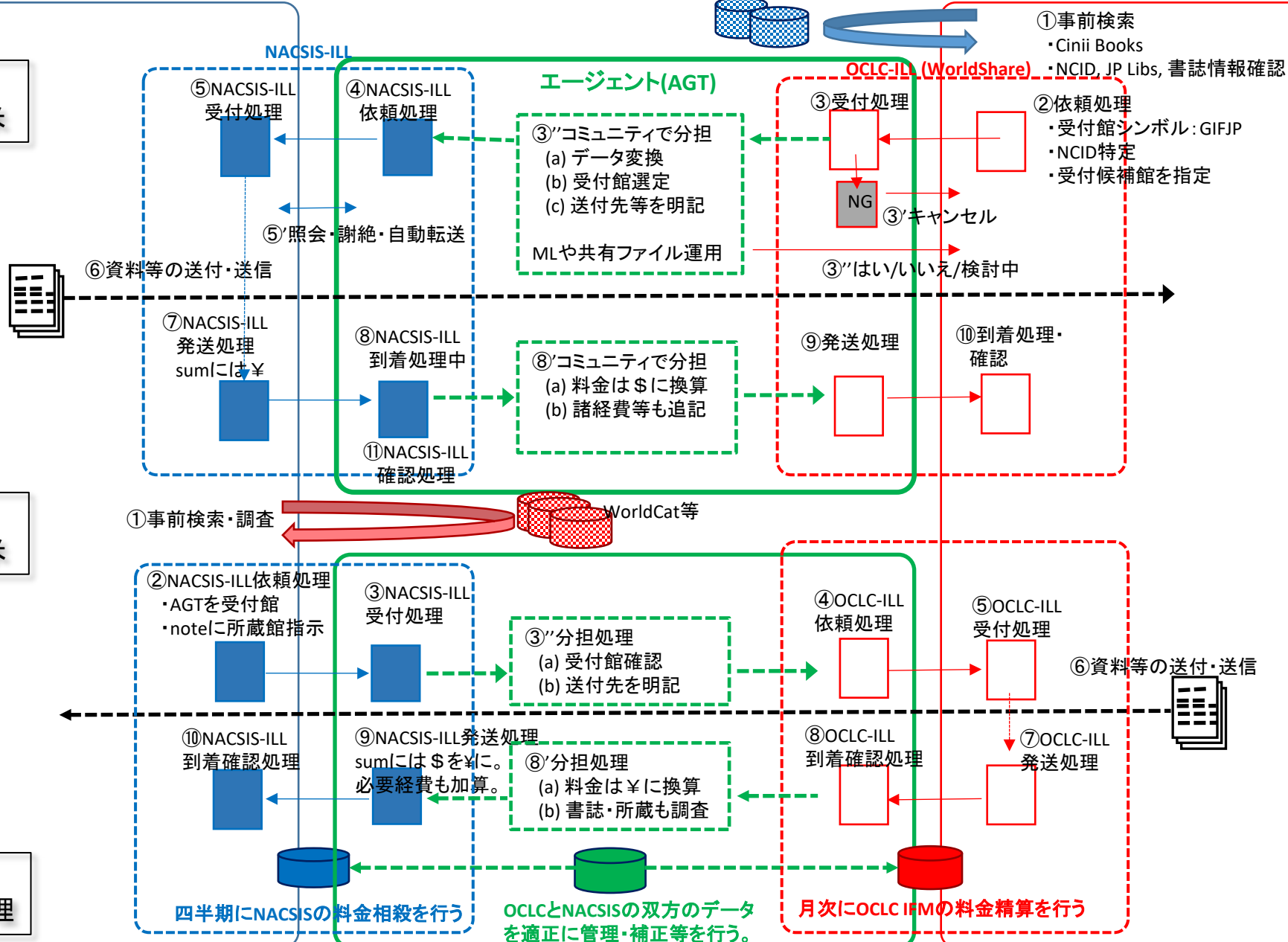
CiNii Books, OPAC等

北米の図書館(USL)

NACSIS-ILL

エージェント(AGT)

OCLC-ILL (WorldShare)

上段は
日本 ← 北米中段は
日本 → 北米最下段は
料金相殺処理

平成 28 年 2 月 16 日
国際 ILL 検討タスクフォース

我が国における国際 ILL フレームワークの再検討に向けて その 1

2014 年度に北米から日本に依頼された資料に関する分析

1. 分析の目的

国際 ILL 検討タスクフォースは、電子情報環境下においてオープンアクセスが進展するなど文献流通環境の変化が見られる中で、効率的に利用者のニーズを満たすための新たな国際 ILL フレームワークを検討している。実際のニーズおよびサービスに関するレビューの一環として、GIF の北米から日本への ILL/DD リクエストに関して「GIF がなければニーズを満たすことができなかったのか」という観点から北米からのリクエストについての調査を行った。

2. 調査対象と方法

調査対象は 2014 年度に GIF によってニーズが満たされた北米から日本への依頼分、すなわち NACSIS-ILL における RNWDT が 20140401～20150331 のデータで、STATUS が確認、返却確認となっているものである。

上記条件で抽出された複写 361 件、現物貸借 288 件のうち、日米間のコミュニケーションのためのダミーデータやデータの文字化けなどで書誌が特定できなかったもの数件を除き、GIF により日本の大学図書館等によって提供された資料について、日本語文献の最大の所蔵機関である国立国会図書館における所蔵状況を確認した。その上で、複写については、(1)全点についてオープンアクセスかどうかを確認、(2)国立国会図書館に所蔵がないものについては北米の図書館の所蔵状況を確認、(3)国立国会図書館に所蔵されているものについては電子化の状況を確認した。また、現物貸借については、(1)国立国会図書館の所蔵資料についてデジタル化の状況についても確認、(2)国立国会図書館での所蔵の有無を問わず WorldCat で北米の所蔵状況を確認した。

3. 結果

3.1 概要

	国立国会図書館に 所蔵があるもの*	国立国会図書館に 所蔵がないもの*	ダミー、書誌特定 できなかったもの	合計
a. 文献複写	322	15	24	361
	95.5%	4.5%		
b. 現物貸借	253	23	12	288
	91.7%	8.3%		

*所蔵の定義：タイトルが所蔵されている。巻号あるいは出版年がはっきりしているものについては、そのレベルまで確認。

3.2 分析

3.2.1 「国立国会図書館に所蔵されているもの」

a. 文献複写

322 件のうち、確実にオープンアクセスになっているものが 17 件、国立国会図書館によるデジタル化が済んでおり日本国内の登録図書館でなら電子的に見られるものの 5 件が含まれる。

なお、2 件については、国立国会図書館の所蔵タイトルではあるが、手元のデータからはどの巻号がリクエストされたか特定できないうえに国立国会図書館での所蔵に欠号が多く、国立国会図書館からは入手不能である可能性を否定できない。

b. 現物貸借

253 件のうち、第二次世界大戦前の出版物などで国立国会図書館におけるデジタル化が済んでおり現時点ではもはや現物貸借ができないと思われるものが 10 件、CD 付きの電子資料室所蔵資料（現物貸借の対象かどうか不明）が 2 件ある。ただし、この 10 件のうち 3 件は「国立国会図書館電子化コレクション」として一般に公開されているものである。また北米の図書館（LC や公共図書館も含む）にも所蔵されているものが 57 件あった。ただし、2013 年や 2014 年の出版物がリクエストされているケースもあり、リクエストが生じた時点で北米に所蔵されていたかどうかは確認できない。また、北米に所蔵されている資料の全てが現物貸借可能かどうかについても一つ一つ確認したわけではないため、留意が必要である。

3.2.2. 「国立国会図書館に所蔵がないもの」

a. 文献複写

国立国会図書館に所蔵されなかった資料の内訳は以下のとおりである。

- | | |
|---------------|---|
| ・ 韓国出版物 | 3 (うち 2 件は北米に所蔵あり) |
| ・ スペイン出版物 | 1 (北米に所蔵あり) |
| ・ ノルウェイ出版物 | 1 (北米に所蔵あり) |
| ・ 北米大学学位論文 | 1 (北米に所蔵あり) |
| ・ 日本出版物・日本語文献 | 9 (うち、古典籍が 3 件(2 件は国文研マイクロ資料, 1 件は早稲田大学所蔵資料で電子公開済。ダウンロードして PDF 化できる)) |

北米からのリクエストのうち、日本の大学図書館のみが提供可能な日本出版物・日本語文献は 8 件（上の 3.1 で言及した、国立国会図書館における欠号の可能性が高いものを含むと 10 件）にすぎない（複写リクエストの 3%以下）。

b. 現物貸借

国立国会図書館に所蔵されなかった資料の内訳は以下のとおりである。

- | | |
|-----------|--|
| ・ フランス出版物 | 3 (うち 2 件は米国に所蔵あり) |
| ・ 中国出版物 | 1 (米国に所蔵あり) |
| ・ 英国出版物 | 1 (米国に所蔵あり) |
| ・ 日本出版物 | 18 (うち、米国に所蔵があるもの 8 件(1 件は出版年の異なる異版), <u>早稲田大学に所蔵があるもの 5 件</u>) |

北米からのリクエストのうち, GIF に参加する日本の大学図書館のみが提供可能な日本出版物は 5 件にすぎない (現物貸借リクエストの 2%)。

4. 検討

ILL/DD においては, 理論的には一つのセンターによる集中的なサービスの提供が最も効率的である。NACSIS-CAT のような分散型の ILL システム構築が合理性を持つのは, センターのコレクションがニーズを満たすうえで十分でない場合においてのみであり, 我が国の学術情報システムの構築 (「1980 年モデル」) において, 我が国の大学における外国雑誌の所蔵状況を踏まえて分散型 ILL/DD を積極的に採用したことは当時の関係者の証言などからよく知られているところである。

GIF は資源分散をベースとした ILL/DD システムの構築をその理念としており, 1) 分散型のリソースの活用, 2) コミュニケーションシステムの確立, 3) 料金決済の簡便化, をその当面の目的としてきたが, 今回の調査結果および現下のサービス環境を踏まえれば, GIF の枠内で実施されてきた国外機関・利用者に対する日本語文献の提供に関しては, 以下のように考えることができる。

- 1) 今回の調査結果が示すように, 国立国会図書館は日本語文献に対するニーズを満たすのに十分なコレクションを有している。国立国会図書館が日本語文献提供のセンターとしての機能を果たせば, 日本語文献の提供のために分散型のシステムを維持する必要性は限りなく低い。
- 2) 以前とは異なり, 国立国会図書館はオンラインでの ILL/DD 受付システムを有している。コミュニケーションの効率性ということを考えても, システム間リンクに問題を含み, 現状では日米の WG メンバーがその課題の解決のために多くの時間を割かざるを得ない GIF に比較して大きな優位性を有する。
- 3) 国立国会図書館はクレジットカードによる決済という利便性の高い料金決済システムを有しており料金決済における煩雑さは以前に比べて大幅に減少している。

このことから, ILL に関する旧 ISO プロトコルのサポートを停止するという OCLC の決定に対応して, GIF による海外からの文献提供依頼を処理するためだけに新たに莫大な投資をしないという判断はきわめて合理的であったと言える。

5. 今後の課題

前述の検討を踏まえ、海外からの日本語文献に対するニーズを満たすためのサービスは、以下の諸点に留意して日本語文献の提供環境の改善を大学図書館は積極的に推進することで次の段階に移行することが妥当である。

- 1) 国立国会図書館による文献提供サービスの利用が普及しても、それを補完する大学図書館への期待、役割はなくなる。国立国会図書館の非所蔵資料に対するリクエストを効率的に満たす手段を大学図書館は維持する必要がある。
- 2) 日本語文献の電子化の遅れが不要な ILL/DD を生じさせているように思われる。特に大学紀要、大学の学内学会などの非営利出版物については、過去分も含め早急に電子化、オープンアクセス化を大学図書館は進めるべきである。
- 3) 電子化された古典籍、論文、報告書などの発見環境の悪さも不必要な ILL を生じさせる要因となる。外国から見た場合、日本語文献を発見するためのインタフェースには依然として課題が多く、特にローマ字での検索に十分対応できるシステム構築が求められる。また、統合的な検索環境が十分とは言えず、電子化され、誰もが利用出来るようになっていても見つけづらいコンテンツがある。
- 4) 機関リポジトリなどでの論文のオープン化においては、分野を問わず英文タイトル、サマリーを付加することで発見可能性が向上することに留意し、関係方面に意識の向上に向けた働きかけを行う必要がある。

以上

ILL 資料の分析：日本から北米への依頼及び日韓間

1. はじめに

- ・東北学院大学佐藤義則教授からの提供データの分析。2012～2014 年度。
- ・日本→北米 6,131 件。「複写」4,630 件。「貸借」1,501 件。状態はすべてのもの。
- ・日韓間はすべて「複写」。総数 13,641 件。韓国←日本:239 件。韓国→日本 13,402 件。状態は全て。
- ・NII からの提供データは文字コード変換されているため一部文字化けがある。

2. 日本から北米への依頼

2.1 日本→北米。「複写」で「確認」

ひとつの大学から集中的に依頼される傾向が。地方出版物・南米・ドイツ・フランス資料等。

46	American Journal of Education (St. Louis)	九大から
41	Zootaxa	メガジャーナル(依頼大学は多数)
28	Revista Brasileira de Biologia	すべて首都大学だけ
20	Quadrante	すべて京大から 1933 年頃のもの
17	Russian Journal of Herpetology	すべて首都大学から 2000 年以降の論文
16	Alytes	すべて首都大学から
16	Annual Report /National Council of Education Research and Training	すべて筑波
14	Physis	
13	Chicago Daily Tribune / 0	
10	Izvestiia na Bulgarskogo istorichesko druzhestvo. Bulletin de la Societe historique bulgare	
10	Neotropica	
9	Annual Review of Economics	
9	Neotropica. La Plata	
8	200 Jahre Sing-Akademie zu Berlin / Gottfried Eberle. -- Nicolai, c1991	
8	Down beat.	
8	IUFRO biomass studies : papers presented during meetings of S4.01 in Nancy, France, June 25-29, 1973 and in Vancouver, B.C., Canada, August 20-24, 1973	
8	Trianea	
8	al-'Irfan.	

2.2 日本→北米。「複写」で「CANCEL」

25	American Journal of Education (St. Louis)
19	Revista de la Academia Colombiana de Ciencias Exactas, Fisicas y Naturales
18	Annual Review of Economics
17	Revista Brasileira de Biologia
12	Ballet. -- Ballet Publications Ltd
11	Diagnosticque
10	Journal of Special Education Technology
10	Journal of computational analysis and applications.
9	Annual Report /National Council of Education Research and Training
9	Journal of the Middle East and Africa
9	Studia Celtica. -- University of Wales Press. -- v. : ill. ; 25 cm .
8	Bulletin biologique de la France et de la Belgique
8	Nebraska nurse. -- Nebraska Nurses' Association]. t
8	Oncology. -- Dominus Pub. Co., c1987-. t
8	Revue de g?ographie du Cameroun = Cameroon geographical review
7	Acta Zoologica Lilloana

- 7 Alytes. Paris
 - 7 Collectanea Hibernica (OCLC Number: 2446049)
 - 7 Proceedings of 5th International Kimberlite Conference
 - 6 Foldrajzi Ertesito
 - 6 Garman Papers,1732-1932
 - 6 New England puritan.
 - 6 Sing-Akademie zu Berlin : Festschrift zum 175 jaehrigen Bestehen / hrsg. von Werner Bollert. -- Rembrandt Verlag
 - 6 TRANSACTIONS- CUMBERLAND AND WESTMORLAND ANTIQUARIAN AND ARCHAEOLOGICAL SOCIETY.. new series
 - 6 [The Cincinnati enquirer] OCLC Number "12065651"
-

2.3 日本→北米。「貸借」で「確認」

- 21 NEA handbook
 - 10 Man, a course of study. [Kit] /developed by the Social Studies Curriculum Program of the Education Development Center ; course director: Peter B. Dow ; consulting scholars: Jerome S. Bruner, Irven DeVore, Asen Balikci.
 - 8 Cartulaire general de l'ordre des Hospitaliers de S. Jean de Jerusalem (1100-1310) / par J. Delaville Le Roulx. -- E. Leroux, 1894.
 - 7 Voluntary support of education
 - 4 UCEA Review (ISSN=0734-5798)
 - 2 Au bonheur des saisons : voyage au pays de la m?t'o / Martin de La Soudi?re. -- Grasset, c1999. -- 379 p. ; 23 cm.
 - 2 Instructions g?n?rales donn?es de 1763 ? 1870 aux gouverneurs et ordonnateurs des ?tablissements fran?ais en Afrique Occidentale / recueillies et publi?es par Christian Schefer-- E. Champion; 1921-.
 - 2 Los cirujanos de hospitales de la Nueva Espa?a (siglos XVI y XVII) : miembros de un estamento profesional o de una comunidad cient?fica? / Mar?a Luisa Rodr?guez-Sala ; con la colaboraci?n de Ver?nica Ram?rez ... [et al.]. -- 1. ed. -- Universidad Nacional Aut?noma de M?xico, Instituto de Investigaciones Sociales : Academia Mexicana de Cirug?a : Secretar?a de Salud : Patronato del Hospital de Jes?s,2005.
 - 2 M?moires de l'origine : un essai sur Pascal Quignard / Chantal Lapeyre-Desmaison. -- Les Flohic ?diteurs, c2001. -- 318 p. : ill. ; 23 cm. -- (Collection Ecritures).
 - 2 Vita prophetarum / Mu?ammad ben ?Abdallah al-Kisa?i ; edidit Isaac Eisenberg ; Pars 1. -- 1922.
-

2.4. 日本→北米。「貸借」で「CANCEL」

- 34 NEA handbook
- 13 Cartulaire general de l'ordre des Hospitaliers de S. Jean de Jerusalem (1100-1310) / par J. Delaville Le Roulx. -- E. Leroux, 1894.
- 7 Accreditation documents for undergraduate programs in home economics.
- 5 L'homme et la femme dans la morale calviniste : la doctrine reformee sur l'amour, le mariage, le celibat, le divorce, l'adultere et la prostitution, consideree dans son cadre historique / Andre Bieler ; . -- Labor et Fides, 1963. -- (Nouvelle serie theologique , 15). OCLC Accession Number is 1353176
- 5 Rapports generaux / XIIIe Congres international, Montreal, 1990 = General reports / XIIIth International Congress, Montreal, 1990. -- Cowansville, Quebec : Editions Y. Blais, 1992.
- 5 Voluntary support of education
- 4 Case del balilla: architettura e fascismo / Capomolla Rinaldo. -- Mondadori Electa.
- 4 Die Golemsage und ihre Verwertung in der deutschen Literatur / Beate Rosenfeld.

- 4 Indian contract & specific relief acts / Pollock & Mulla, 13th ed., vol. 1
- 4 Killing a buffalo for the ancestors : a Zhuang cosmological text from Southwest China + CD-ROM
- 4 L'Univers israelite
- 4 La repubblica inquieta : Venezia nel Seicento tra Italia ed Europa / Stefano Andretta / Carocci editore, 2000 / Ricerche (Carocci editore); 1
- 4 Legislative history of the Central Intelligence Agency as documented in published Congressional sources [microform] / Grover S. Williams.
- 4 Patterns of giving to higher education: an analysis of contributions and their relation to tax policy
- 4 The external male genitalia and the phylogeny of Blattaria and Mantodea. / Klass, K. D. -- Bonner zoologische Monographien.
- 4 Tovma Metsobetsi's History of Tamerlane and his successors / Tovma Metsobetsi, Vardapet, translated by Robert Bedrosian. 1987
-

2.5. 日本→北米。「複写」で「確認」。依頼上位館

- 324 首都大
- 211 一橋
- 209 東大総
- 184 京大
- 161 北大
- 153 茶女大
- 93 東北大
- 91 名大
- 80 筑大
- 70 九大
- 61 広大中
- 57 阪大総
- 52 熊大
- 48 成蹊大
- 47 国環研
- 45 民博
- 45 関大
- 42 ICU
- 35 成城大
- 35 神大社会
-

2.6. 日本→北米。「貸借」で「返却確認」。依頼上位館

- 234 東大総
- 60 京大
- 42 名大
- 41 広大中
- 37 首都大
- 35 東北大
- 31 北大
- 30 一橋
- 26 学習院
- 21 ICU
- 18 岡大
- 17 駒大

15	神大社会
15	筑大
13	福大
13	茶女大
12	東学大
12	阪大総
10	同大
9	明大

3. 日本・韓国間の依頼資料

3.1. 韓国→日本。「複写」で「確認」。タイトルの上位リスト

49	國文學： 解釈と教材の研究 / ガクトウシャ.	
32	軍事史学 / グンジ シガツカイ.	
31	經濟月報 / ケイジョウ ショウコウ カイギショ.	
30	少年世界 / ハクブンカン.	
30	短歌 / カドカワ ショテン.	
29	京城商業會議所月報朝鮮經濟雜誌 / ケイジョウ ショウギョウ カイギショ.	
29	新日本文學 / シンニホン ブンガツカイ.	
27	東アジア日本語教育・日本文化研究 / ヒガシアジア ニホンゴ キョウイク・ニホン ブンカ	ケンキ
	ユウ ガツカイ. フジイ, シゲトシ.	
26	智山學報.	
25	アジア遊学.	
25	佛教經濟研究 / コマザワ ダイガク ブツキョウ ケイザイ	ケンキウジョ.
24	國文學解釋と鑑賞. / シブンドウ.	
22	文學 / イワナミ ショテン.	
22	觀世 / カンゼカイ.	
21	國語國文 / キョウト テイコク ダイガク コクブンガツカイ. キョウト ダイガク ブンガクブ コクゴガク	
	コクブンガク ケンキウシツ.	
21	日本社会教育学会紀要 / ニホン シャカイ キョウイク ガツカイ.	
21	阪大法学 / オオサカ ダイガク. オオサカ ダイガク ホウガクブ. オオサカ ダイガク ホウガツカイ. オ	
	オオサカ ダイガク ダイガクイン ホウガク	ケンキウカ.
20	日税研論集 / ニホン ゼイム ケンキウ センター.	
19	悲劇喜劇. / ハヤカワ ショボウ.	
19	松本清張研究. / キタキウシュウ シリツ マツモト セイチョウ	キネンカン.
19	潮. / ウシオ シュツパンシヤ.	
19	立命館言語文化研究 / リツメイカン ダイガク コクサイ ゲンゴ ブンカ	ケンキウジョ.
19	群像.	
18	ジュリスト. / ユウヒカク.	
18	国語国文薩摩路 / カゴシマ ダイガク ブンリ ガクブ コクブン	ケンキウシツ. カゴシマ ダイ
	ガク ホウブン ガクブ コクブン	ケンキウシツ. カゴシマ ダイガク ホウブン ガクブ コクブンガ
	ク	ケン
18	國語と国文学. / トウキョウ ダイガク コクゴ コクブンガツカイ.	
18	紅衛兵資料 : Red Guard Publications. / Association of Research Libraries. Center for	
	Chinese Research Materials.	

3.1.2. 韓国→日本。「複写」で「CANCEL」。上位タイトル

71	京城商業會議所月報朝鮮經濟雜誌 / ケイジョウ ショウギョウ カイギショ.	
36	經濟月報 / ケイジョウ ショウコウ カイギショ.	
32	松本清張研究. / キタキウシュウ シリツ マツモト セイチョウ	キネンカン.

- 28 日本語文法 / ニホンゴ ブンポウ ガッカイ.
 26 日本社会教育学会紀要 / ニホン シャカイ キョウイク ガッカイ.
 20 アジア遊学.
 20 東方. / トウホウ ガクイン.
 20 次の時代を担う日本の新しい組織とグループ. / ソウゴウ ケンキュウ カイハツ キコウ.
 20 社会言語科学 / シャカイ ゲンゴ カガクカイ.
 20 資料文政審議会 / コクリツ キョウイク ケンキュウジョ ニホン キンダイキョウイク シリョウ ケンキュウカイ.
 20 近代風景. / キタハラ, ハクシュウ.
 19 自然災害科学 / シゼン サイガイ カガクカイ. ニホン シゼン サイガイ ガッカイ.
 17 季刊日本思想史 / ニホン シソウシ コンワカイ.
 17 第二言語としての日本語の習得研究 / ダイニ ゲンゴ シュウトク ケンキュウカイ.
 16 外交史料から十◆UFF5E◆十四世紀を探る / ヒラタ, シゲキ. エンドウ, タカトシ.
 16 政策月報 / ジュウ ミンシュトウ セイム チョウサカイ.
 16 観世 / カンゼカイ.
 15 Bulletin of the National Museum of Nature and Science. Series A, Zoology / コクリツ カガク
 ハクブツカン.
 15 世界思想 / セカイ シソウシャ ヘンシュウブ.
 15 叢: 近世文学演習ノート. / トウキョウ ガクゲイ ダイガク コクゴ コクブンガッカイ キンセイ ブン
 ガク ブンカカイ ダイガクイン ドウジン. キンセイ ブンガク ケンキュウ ソウ ノ カイ.
 15 国文学解釋と鑑賞. / シブンドウ.
 15 少年世界. / ハクブンカン.
 15 日本中国學會報 / ニホン チュウゴクガッカイ.
 15 朝鮮研究 / ニホン チョウセン ケンキュウジョ.
 15 阪大法学 / オオサカ ダイガク. オオサカ ダイガク ホウガクブ. オオサカ ダイガク ホウガッカイ. オオ
 サカ ダイガク ダイガクイン ホウガク ケンキュウカ.
 15 静大國文 / シズオカ ダイガク ジンブン ガクブ コクブン ダンワカイ.

3.1.3. 韓国→日本、「複写」で「確認」。出版年別頻度

2015	4
2014	90
2013	169
2012	224
2011	233
2010	230
2009	170
2008	232
2007	176
2006	192
2005	174
2004	193
2003	171
2002	151
2001	184
2000	198
1999	185
1998	184
1997	155
1996	142
1995	109
1994	159

1993	118
1992	95
1991	123
1990	105
1989	97
1988	110
1987	125
1986	106
1985	82
1984	104
1983	82
1982	96
1981	83
1980	88
1979	68
1978	87
1977	85
1976	84
1975	91
1974	67
1973	64
1972	83
1971	70
1970	67
1969	66
1968	116
1967	53
1966	108

3.1.4. 韓国→日本。「複写」で「確認」。受付館上位

北大	997
東北大	665
国文研	470
慶大三	430
東大総	352
北教大	329
一橋	323
金大	304
東外大	278
埼大	181
三重大	161
富大	141
群大	133
東大文	123
民博	121
北教大函	111
阪大総	110
樽大	101
和光大	95
京大	94

3.1.5. 韓国→日本。「複写」で「確認」。最大受付館である北大の受付上位タイトル 10

- 17 阪大法学 / オオサカ ダイガク. オオサカ ダイガク ホウガクブ. オオサカ ダイガク ホウガクカイ. オオサカ ダイガク ダイガクイン ホウガク ケンキュウカ.
- 15 早稲田大学大学院法研論集 / ワセダ ダイガク ダイガクイン ホウガク ケンキュウカ.
- 8 清和法学研究 / セイワ ダイガク ホウガクカイ.
- 7 判例地方自治 / チホウ ジチ ハンレイ ケンキュウカイ.
- 7 法学紀要 / ニホン ダイガク ホウガク ケンキュウジョ.
- 6 キリスト教文化研究所研究年報 : 民族と宗教 / ミヤギ ガクイン ジョシ ダイガク キリストキョウ ケンキュウジョ.
- 6 ジュリスト. / ユウヒカク.
- 6 國文學 : 解釈と教材の研究 / ガクトウシャ.
- 6 月刊国語教育.
- 6 鹿児島大学法文学部紀要. 人文学科論集 / カゴシマ ダイガク ホウブン ガクブ.

3.1.6. 韓国→日本。「複写」で「確認」。受付館 2 番目の東北大の受付上位タイトル 10

- 18 松本清張研究. / キタキュウシュウ シリツ マツモト セイチョウ キネンカン.
- 16 讀賣新聞.
- 11 政策月報 / ジュウ ミンシュトウ セイム チョウサカイ.
- 10 群像.
- 8 大谷學報 / オオタニ ガクカイ.
- 8 悲劇喜劇. / ハヤカワ ショボウ.
- 8 短歌研究. / ニホン タンカシャ. タンカ ケンキュウシャ.
- 6 慶応義塾大学言語文化研究所紀要 / ケイオウ ギジュク ダイガク ゲンゴ ブンカ ケンキュウジョ.
- 6 横浜開港資料館紀要 / ヨコハマ カイコウ シリョウカン.
- 6 立命館言語文化研究 / リツメイカン ダイガク コクサイ ゲンゴ ブンカ ケンキュウジョ.

3.2.1. 日本→韓国。「複写」で「確認」。タイトル上位

- 11 朝鮮總督府報告例[別冊] / 朝鮮總督府 編. 京城(◆UC11C◆◆UC6B8◆) : 朝鮮總督府, 大正 3[1914]-
- 5 The Korean Journal of Systematic Zoology / The Korean Society of Systematic Zoology.
- 4 Chinese Journal of Communication
- 4 Journal of Korean Art Therapy
- 3 Korean journal of Apiculture (ISSN : 1225-0252) ◆UD55C◆◆UAD6D◆◆UC591◆◆ UBD09◆◆UD559◆◆UD68C◆◆UC9C0◆
- 3 ◆UC5EC◆◆UC131◆(女性)/◆UC870◆◆UC120◆◆UC77C◆◆UBCF4◆◆UC0AC◆(朝鮮日報社)
- 3 ◆UC5ED◆◆UC0AC◆◆UBBFC◆◆UC18D◆◆UD559◆ The Journal of Korean Historical-folklife ◆UD55C◆◆UAD6D◆◆UC5ED◆◆UC0AC◆◆UBBFC◆◆UC18D◆◆UD559◆◆UD68C◆. -- ◆UBBFC◆◆UC18D◆◆UC6D0◆, [1994]-
- 2 Asia-Pacific Journal of Atmospheric Sciences : Korean Meteorological Society. -- Korean Meteorological Society, 2008-. -- v. : bill ; 27 cm.
- 2 Electronic materials letters // Korea Institute of Metals and Materials. -- v.1, no.1(Sep. 2005)-. -- Korea Institute of Metals and Materials.,2005-. -- v. : ill. ; ; 28 cm .
- 2 Genes & genomics.
- 2 International Journal of Performability Engineering / 0
- 2 ◆UBB38◆◆UD654◆◆UC5ED◆◆UC0AC◆◆UC9C0◆◆UB9AC◆◆UD55C◆◆ UAD6D◆◆UBB38◆◆UD654◆◆UC5ED◆◆UC0AC◆◆UC9C0◆◆UB9AC◆◆UC5F0◆◆UAD6C◆◆UD68C◆. -- 韓國文化歴史地理研究會, 1989-
- 2 ◆UD638◆◆UC11C◆◆UC0AC◆◆UD559◆ (湖西史学)

- 2 一鑑法學 建國大學校 法學研究所 編.
- 2 昭和五年朝鮮國勢調查質疑應答 / 朝鮮總督府 編. -- 朝鮮總督府, [193-]. -- 49 p.; 23 cm.
- 2 朝鮮の教育研究 / 朝鮮初等教育研究会 0
- 2 朝鮮の教育研究 / 朝鮮初等教育研究會. -- 朝鮮初等教育研究會.
- 2 朝鮮の教育研究/朝鮮初等教育研究會
- 2 檀君神話研究 / ◆UC774◆◆UC740◆◆UBD09◆ ◆UC5EE◆◆UC74C◆. -- ◆UC628◆◆UB204◆◆UB9AC◆ , 1986. -- (◆UC628◆◆UB204◆◆UB9AC◆ ◆UAD6D◆◆UD559◆◆UCD1D◆◆UC11C◆ ; 3).

3.2.2. 日本→韓国。「複写」で「CANCEL」。タイトル上位

- 3 Journal of Korean Art Therapy
- 3 ◆UB300◆◆UD55C◆◆UACBD◆◆UC81C◆ / ◆UB300◆◆UD55C◆◆UACBD◆◆UC81C◆◆UC5F0◆◆UAD6C◆◆UC18C◆ = the Korea Economic = Korea Economic Institute.
- 3 ◆UC5EC◆◆UC131◆(女性)/◆UC870◆◆UC120◆◆UC77C◆◆UBCF4◆◆UC0AC◆(朝鮮日報社)
- 3 高等法院判決
- 2 Asia-Pacific Journal of Atmospheric Sciences : Korean Meteorological Society. -- Korean Meteorological Society, 2008-. -- v. : bill ; 27 cm.
- 2 ◆UC5ED◆◆UC0AC◆◆UBBFC◆◆UC18D◆◆UD559◆ The Journal of Korean Historical-folklife ◆UD55C◆◆UAD6D◆◆UC5ED◆◆UC0AC◆◆UBBFC◆◆UC18D◆◆UD559◆◆UD68C◆. -- ◆UBBFC◆◆UC18D◆◆UC6D0◆, [1994]-
- 2 ◆UC81C◆◆UC8FC◆◆UC758◆ ◆UBC14◆◆UB2F7◆◆UB9D0◆ Marine algae of Jeju ◆UC774◆◆UC6A9◆◆UD544◆ ◆UC800◆. -- ◆UC544◆◆UCE74◆◆UB370◆◆UBBF8◆◆UC11C◆◆UC801◆, 2008
- 2 新羅文化 Silla mun hwa 東國大學校 新羅文化研究所 編. -- 東國大學校 新羅文化研究所, 1984-

3-3. 日本→韓国。「複写」で「確認」。出版年別頻度

2014	6
2013	9
2012	10
2011	12
2010	13
2009	11
2008	8
2007	4
2006	7
2005	5
2004	6
2003	7
2002	2
2001	6
2000	4
1999	2
1998	1
1997	2
1996	5
1995	1
1994	2

1993	4
1992	1
1990	4
1988	1
1987	3
1986	5
1985	1
1975	1
1971	1
1964	1

3・4. 日本→韓国。「複写」で「確認」。依頼館上位 20 館

北大	20
阪大総	19
筑大	17
一橋	16
京産大	15
東学大	15
九大	7
慶大三	6
東大総	6
富大	5
広大中	4
新大	4
福教大	4
阪大外	4
国際大	3
東工大岡	3
神大社会	3
茶女大	3
近大	3
金大	3